

令和5年度 東京都立志村学園 学校経営報告

統括校長 並木 信治

今年度の取組評価と今後の課題

I 学校経営

◎達成 ○ほぼ達成 △課題あり

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 人権の尊重	学校評価アンケートにおける肯定的評価 90%以上	児童・生徒 86% 保護者 98% 教職員 98%	○
	本人アンケート回収率 児童・生徒 100% 教職員面接 100%	アンケート回収率 児童・生徒 100% 教職員面接 100%	◎
(2) 「新しい日常」の定着	校内における感染拡大 0	校内における感染拡大 0	◎
(3) 4Sの徹底	アンケートでの肯定的評価 90%以上	肯定的評価 児童・生徒 88% 保護者 98% 教職員 97%	○
(4) 部門間交流の推進	アンケートでの肯定的評価 80%以上	肯定的評価 児童・生徒 77% 保護者 97% 教職員 92%	○
(5) 信頼される学校づくり	HP、Twitterなどの学校外への情報発信 年 250 回以上	HP 更新等 年間 350 回	◎
	カフェオープン、企業での授業実践の実施 年 30 回以上	レストラン(ランチ)オープン 8 回 校内カフェオープン 25 回以上 企業での授業実践 30 回以上	◎
(6) 次代を担う人材育成	新たな発想による改善策の具現化年間 2 件	改善策の具現化年間 4 件	◎
	教職員アンケートにおける肯定的評価 90%以上 (摂食機能研修)	研修事後アンケート実施 肯定的意見多数	◎

【今後の課題】

- ・肢体、就技両部門間の積極的交流のさらなる促進
- ・次代を担う若手教員の育成と障害種に応じた教員の専門性向上

II 学習指導

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) カリキュラム・マネジメント	各教科間及び日常生活や職業との関連を意識した指導内容の作成・実施・評価・改善	授業研究に基づく指導内容の評価・改善の実施 ICT 活用の充実を踏まえた各教科におけるシラバスの見直し	○

(2) 障害特性を踏まえた指導力向上	自己申告における改善課題の明確化 (全教員) アンケートでの肯定的評価(改善の実感) 90%以上	自己申告における課題の明確化 全教員実施 アンケートでの肯定的評価 100%	○
(3) DX 推進と発信力の育成	指導事例及び作成教材の共有(就技 全教科、肢体全学習 G) プレゼンテーション発表会等の実施年 3 回 以上(就技)	全教科でスマートスクール端末 の活用を推進(就技) 成果発表会(3 年)、他情報 授業における取組等	○
(4) 外部人材・外部機関の活用	外部専門家による教職員へのフィードバックの実施 100%	適正に実施	◎
(5) 学校 2020 レガシーの継承	学習機会の設定 各部門年間 2 回程度	茶道(1 年次 3 回)、生け花(部 活動年間 10 回)(就技) 「あすチャレ」スクール、伝統文 化鑑賞(肢体)	◎
(6) 図書活用・読書活動の推進	児童・生徒が利用しやすい図書館を目指した環境整備	図書室のオープンスペース化 書架レイアウトの改善	◎
	西台図書館との連携の充実及び魅力あふれる蔵書整備	定期的な図書借上げ 交流の推進(児童・生徒の作 品展示)	○

【今後の課題】

- ・各教科間及び日常生活や職業との関連を意識した具体的シラバスの作成
- ・全教員の障害特性に係る理解の深化と専門性の向上
- ・司書(モデル配置)を活用した図書館管理と蔵書の充実

Ⅲ 進路指導・キャリア教育

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 企業就労 100% (就業技術科)	企業就労 100%	企業就労 91.0%	○
	進路決定 100%	98.6%	○
(2) 進路決定 100% (肢体不自由教育部門高等部)	進路面談 年間 30 回以上 保護者対象研修の実施 年間 1 回以上	対ニーズ 100%実施 保護者対象研修会実施 1 回	◎
	必要に応じた新たな進路先の開拓(通年)	企業体験、大学等オープンキャンパス参加等	○
(3) 継続教育の実施	本人講座の実施 年間 10 回	ハイブリッド形式で年間 10 回 実施	◎
(4) ロールモデルの提示	不適切な指導、体罰 0 卒業生講話 年間 1 回以上	不適切な指導・体罰 0 件 卒業生講話年間 1 回(就技・ 肢体)	○

【今後の課題】

- ・生徒の実態を踏まえた適切な進路指導の継続(就技・肢体)
- ・関係機関、企業等との連携のさらなる強化(就技)
- ・各地域の進路状況に係る保護者との積極的な情報共有(肢体)

IV 生活指導

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 相談支援体制の充実	SCによる就技1年への全員面接を実施 (6月まで) 相談体制の構築(通年)	全員面接完了 SC相談実績 生徒133名、保護者10名、 教員15名	○
	自殺防止、SNSルール、いじめ防止に関する授業の実施 年間3回(就技)	各学年 年間3回実施	◎
(2) 安全教育の推進	セーフティ教室の実施 年間3回以上	生徒対象3回 保護者対象1回	◎
(3) 通学手段の充実 (肢体不自由教育部門)	医療的ケア専用車両の安全運行(肢体) (事故等件数0件)	年間事故件数 0	◎
(4) 防災教育の充実	避難訓練の実施 各部門年間11回	計画通り実施 (+教員対象訓練2回)	◎
	宿泊防災訓練の実施 両部門合同年1回	宿泊防災訓練 計画通り実施	◎

【今後の課題】

- ・SC、心理士を活用した相談体制のさらなる充実
- ・自殺防止、いじめ防止、SNSルールの徹底等に関する指導のさらなる充実

V 特別活動・保健指導・入学相談・交流教育

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 人間性を育む部活動	顧問会の実施 年間2回以上 大会又は各種行事への参加 年間1回以上(就技)	計画通りに実施 全部活動が各種大会、行事に 参加 部活動まつり実施	◎
(2) 医療的ケアの推進 (肢体不自由教育部門)	第3号研修受講済み教職員80%以上 (肢体)	研修履修率 100%	◎
	必要物品の随時購入による保持100% (肢体)	必要物品の不足状況発生なし	○
(3) 広報活動の多様化 (就業技術科)	学科説明会の実施 年間20回 授業体験の実施 年間5回 部活動体験の実施 年間1回	学科説明会 20回実施 授業体験 6回実施 部活動体験 2回実施 上級学校訪問対応 10回以上	◎
(4) 入学・転学相談の充実 (肢体不自由教育部門)	適正な相談の実施 年間随時 苦情案件 年間0件	対ニーズ実施 100% 苦情案件 0件	◎
(5) 交流教育の推進 (肢体不自由教育部門)	副籍直接交流 年間5件 副籍関節交流 年間10件 学校間交流 年間2回	直接交流 延べ10回以上 志村第五小学校 対面及びオ ンライン交流 年間3回	○

(6) 都立高等学校への支援	連絡協議会の実施 年間 3 回以上	情報交換会 4 回実施 訪問支援 15 回以上実施	◎
----------------	----------------------	------------------------------	---

【今後の課題】

- ・積極的な広報活動による受験者数の確保
- ・学校間交流の発展的継続、副籍交流の活性化
- ・都立高等学校への支援体制づくりとネットワークの強化

VI 能力開発・働き方

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) ライフ・ワーク・バランスの実現	学校閉庁日 年間 5 日 定時退庁日 毎週水曜日 月 45 時間以上超過勤務者 毎月 25%以下	閉庁日 5 日設定 定時退庁日 通年実施 月 45 時間以上超勤者 年平均約 25%	○
(2) ウェル・ビーイングの推進	達成感や有用感、前向きな感情を育み 合える職場環境の構築	積極的な教職員からの意見聴 取機会の設定 教職員間交流活動の推進	○

【今後の課題】

- ・積極的な業務見直しによる教職員の業務効率化や時間の有効活用への意識喚起
- ・ウェル・ビーイングの向上による、持続可能な「働きがい」のある職場づくり